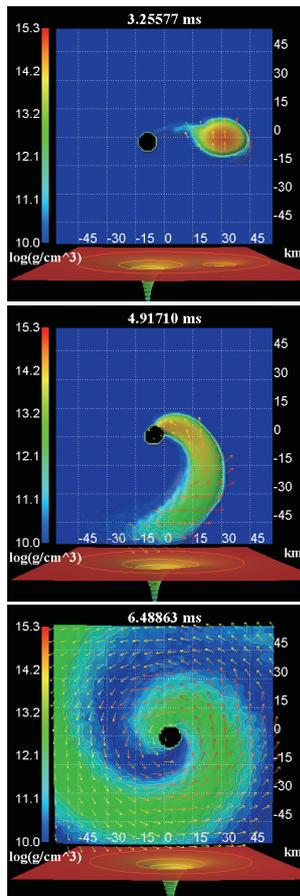


大講座紹介

基礎システム学大講座

広域システム科学系



図：ブラックホールと中性子星の合体時に、中性子星が潮汐破壊される様子。軌道面上の密度分布（上部）とラプス関数の鳥瞰図（下部）。中央上の数字は経過時間をミリ秒（ms）単位で示している。柴田提供。

自然の諸階層にわたって現れる非線形現象および非線形システムを、様々な角度から解明することを目指している。最近の研究内容は次のようなものである。

まず宇宙に関連して（1）回転星の構造や不安定性、連星中性子星や連星ブラックホールの合体過程、中性子星やブラックホールの形成過程、超新星爆発や新星現象のメカニズム、 γ 線バーストの発生メカニズム、太陽コロナの起源、恒星風のメカニズム、宇宙における磁気流体過程、恒星の進化計算などの研究、（2）赤外線による宇宙観測（原始星や原始銀河の観測および黄道光の正体の解明）がなされている。

また、人工システムでは、計算機中に人工世界を構築して自己複製機構の発生と進化、アルゴリズムとデータの共進化、カオスと協調性の進化、カオスの多様性の維持、ジレンマゲームにおける戦略の進化などが研究されている。

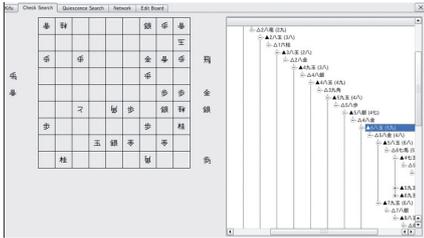
その他にも、グラフ、マトロイド、凸幾何などの離散数学や、組み合わせ最適化アルゴリズムと生物情報学の研究といった研究も行なわれている。

▼博士論文・修士論文の主なテーマ

- Dynamical evolution of star clusters with many primordial binaries（初期連星を多数含む星団の力学進化）
- 二次元格子状空間での持久戦ゲームのシミュレーション
- ニュートリノ冷却を考慮した kerr ブラックホール周りの降着流
- サブストラクチャ・ペア史の統計的研究
- 重力多体問題に対する時間対象な独立可変時間刻み積分法
- A New Application of Non-gravitational Acceleration to the Neck-line Image of 22P/Kopff during 2002/2003 Apparition
- 次期赤外線観測衛星に向けたウェハボンディングプロセスとマイクロレンズアレーを用いた遠赤外線検出器の開発
- Life game による Embodiment の Realization
- 非計画購買行動における実験と生態心理的考察
- Simulations of stellar core collapse in full general relativity with a realistic equation of state
- 力学系の初期値敏感性を利用した組合せ的時系列の学習生成モデル

▼担当教員と専門分野

池上 高志（非線形複雑系の数理）	柴田 大（宇宙物理学）	中村 政隆（離散数学）
上野 宗孝（赤外線天文学）	鈴木 建（宇宙物理学）	蜂巢 泉（宇宙物理学）
江里口良治（宇宙物理学）	土井 靖生（赤外線天文学）	



詰将棋を題材にした大規模 AND/OR 木探索の研究

詰将棋は将棋を題材にした一人遊び用パズルであり、古く江戸時代より、読みまでに数百手を要する長手数
の芸術的な作品も多数作られてきた。同時に、長手数の
作品は計算機における AND/OR 木探索の大規模な
例題としても魅力的であり、近年の探索技術の進歩に
は日本の研究者による貢献も大きい。長手数の詰将棋
を解くには証明数探索と呼ばれる手法を発展させたもの
が適しており、そこでは証明したり反証したりする
ために必要な先端節点数を保持し、それらの数が小
さい節点を順次展開することで有望な分岐を集中的に
探索する。合流の扱い方の工夫や読みやすさを機械学
習により予測することなどにより探索性能は向上し続
けている。

人間自身の情報処理を対象とした認知科学的な研究から、コンピュータそのものを扱う計算機科学的な研究まで、システムと情報という観点から幅の広い研究と教育を行なう。また他の大講座と協力して各種複合システムのシュミレーション・評価などの理論的考察と展開を目指す。研究内容は以下のとおり。

(1) 情報 (information) と計算 (computing) のモデルに関する研究

情報モデルの比較研究と情報構造の特徴づけ及び部分空間分類、形状のモデル化、とくに形状位相表現や曲面処理技術、画像情報の処理、ソフトウェアの仕様・検証技術、ソフトウェアの進化プロセス、ソフトウェア工学と知識工学との融合。

(2) 情報処理システムの計算機構、ハードウェア、ソフトウェアおよび分野適応な利用技術に関する研究

コンピュータネットワーク、銀河などの自己重力系の進化シュミレーションとそのためのアルゴリズム研究

(3) 人間コンピュータの複合系としての情報処理システムの研究

コンピュータグラフィックスとウインドウ環境におけるユーザインタフェースシステム、抽象情報の図化と例示による写像記述方式、問題解決と発想を支援するシステム、情報処理システムにおける人間の負担。

(4) 情報と人間に関する研究

人間の推論・問題解決・学習・発想などの情報処理プロセスの認知科学的研究。

類推とアブダクションによる仮説形成、乳幼児における発達メカニズムに関する研究、科学論・システム論、技術史、人間の感性に関わる情報の計量化とその応用。

▼博士論文・修士論文の主なテーマ

- 代数仕様技術に基づくオブジェクト指向ソフトウェア工学の研究
- オブジェクトの進化と組織化プロセスの研究
- 自然画像を対象とした視覚秘密分散の物理的実現法
- 多変量解析による切断面実形視テストのパフォーマンスに関する研究
- Acquisition of Cooperative Tactics by Soccer Agents with Ability to Predict
- データフローを扱うアスペクト指向プログラム言語の研究
- Web 構造の分析

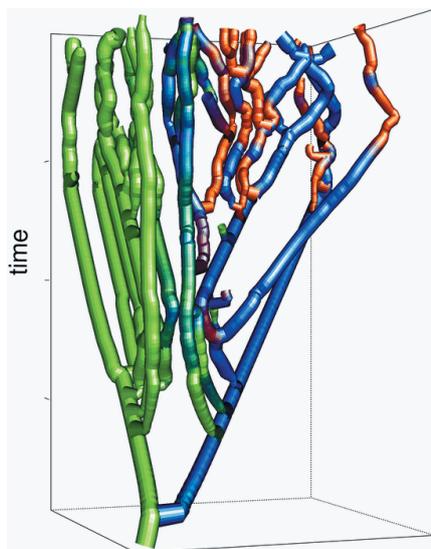
▼担当教員と専門分野

安達 裕之 (造船史)	鈴木賢次郎 (認知図学)	増原 英彦 (プログラミング言語)
植田 一博 (認知科学)	関谷 貴之 (教育支援システム)	丸山 一貴 (Web 情報システム)
柏原 賢二 (離散数理)	田中 哲朗 (プログラミング言語)	山口 和紀 (データモデル)
金井 崇 (コンピュータグラフィックス)	玉井 哲雄 (ソフトウェア工学)	山口 泰 (視覚メディア)
金子 知適 (知識処理)	開 一夫 (認知科学)	
柴山 悦哉 (コンピュータソフトウェア)	船渡 陽子 (計算天文学)	

大講座紹介

自然体系学大講座

広域システム科学系



食物網の自律進化モデルによる生物の多様化と系統図

進化の時間は下から上に向かって進む。水平方向の2次元平面には、自分が利用する（摂食する）ニッチと、利用される（摂食される）ときのニッチが、座標となって表されている。ニッチ平面の座標位置の変化は、突然変異と自然選択によって駆動されるように反応拡散方程式で定式化してある。系には、生産者のみが使えるエネルギー（植物にとっての光のような）だけが流入し、最初は生産者（緑色）だけが存在する状態からスタートする。早い段階で、それを摂食する消費者（捕食者、紺色）が現われ、生産者と捕食者の系統は時間とともに多様に分岐していく。そして、捕食者をさらに摂食する高次の捕食者（茶色）が現われる。このモデルにより、生態系で最初の生産者出現から、どのように複雑な構成種が自律生成するのかの普遍的理解が得られる。

自然界に存在する多種多様なシステムを対象として、個別科学に立ちながら、その枠を越えてシステムとしての仕組みと挙動を解明し、人間・社会にまで関係するものを含めてその制御を考究する。ここでいう自然界のシステムには、物質的・地球的・生命的・生態的なものを含む。この大講座は以下の4つの研究グループから構成されている。

地球変遷研究グループ：地殻・マントル・核など、地球の層構造を形造る部分の進化とそれらの相互作用、また、生物の進化との相互作用を追求し、システムとしての地球変遷を研究する。

物質・エネルギー循環研究グループ：地球表層における物質移動を大気圏・水圏・堆積圏・生物圏の間の循環と捉え、その過程でどのような素過程が各物質の移動を支配するかを解析する。また、人類活動がそれらにどのようなインパクトを与えつつあるかの分析をもとに、地球表層の将来の環境を予測し、人類の生存環境の最適化を目指す研究を進めている。

生物社会学研究グループ：動植物に見られるさまざまな生物社会の実態と、それらの進化プロセスを明らかにし、さらにその系統進化を統一的に理解する理論の構築を目指している。

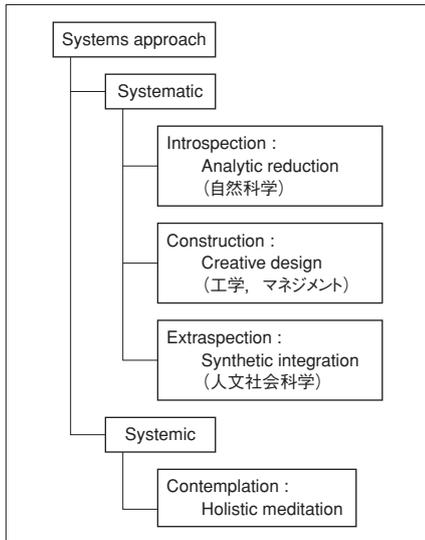
生態システム研究グループ：植物の光合成による物質生産や動物の資源利用、個体群のダイナミクスと種間相互作用、生物群集と生態系の構造と機能、生態ダイナミクスと進化ダイナミクスの相互関係などを研究している。

▼博士論文・修士論文の主なテーマ

- 有機色素会合体の酸化還元と電気伝導度
- 中国四川省朝天セクションの古生代・中生代境界層の層序学的研究
- コケシノブ科の系統と進化
- 食物網の自律進化モデル
- 寄生蜂による性比調節の進化とその遺伝的背景：Heterospilus prosopidis における寄主の質の効果
- ミカツキモにおける性フェロモンの生理学的・分子生物学的解析
- 植物食昆虫の個体群動態と生活史スケジュールの進化：サイカチマメゾウムシの越冬戦略
- プランクトンの個体サイズを基にした食物網構造：沖合い表層の3生態系比較
- 植物細胞におけるテトラピロール分配・輸送機構の分子機構

▼担当教員と専門分野

小河 正基（地球物理学）	柴尾 晴信（動物生態学）	増田 建（植物生理学）
磯崎 行雄（地球科学・生命史）	嶋田 正和（集団生態学）	吉田 丈人（生態学）
伊藤 元己（多様性生物学）	清野 聡子（環境生態工学）	
角和 善隆（生物大量絶滅学）	瀬川 浩司（分子システム）	



システムズアプローチ
(Heiner Müller-Merbach より)

人間・社会と自然を対象に含む複合的な系を計画主体の視点から研究する。都市、生活空間、環境、資源・エネルギー、科学技術政策等、人文社会科学、自然科学、工学の境界領域に横たわる、さまざまな複合的課題の解明を目的としている。各領域固有の方法論のほかに、システム論、設計論、戦略論、経営論等の計画学の方法論を用いる。具体的な研究内容の例は次の通りである。

- 地域間所得再分配のメカニズムとその変容に関する実証研究
- 地域データ分析等による都市住民の生活活動の時空間構造や企業及び住民の情報行動の空間性の解析に関する実証的研究
- 立地論に基づく経済地理学の理論的研究及び産業立地と地域経済に関する実証的研究
- 農業土地利用における環境と人間の関係に関する政治生態学的研究
- 環境中の種々の元素の自然な分布と挙動に対する人間活動の影響に関する分析化学的立場からの研究
- 人間と空間環境との関係に関する研究
- 建築設計における空間構成に関する設計システム論の立場からの理論的研究
- システム論と技術経営論の視点から科学技術政策、研究開発マネジメント、イノベーションシステムなどの研究
- 科学技術社会論の視点から科学技術と社会との接点で発生する諸問題、公共空間の意志決定に関する課題の研究
- 認知科学と組織知能論の視点から、人間や人間組織の創造的／知的活動に関する研究

▼博士論文・修士論文の主なテーマ

- グローバル時代における自動車産業の立地調整と国内生産システムの変化
- 国土周辺地域における資源利用の再編
- ライフコースからみた韓国女性の就職移動
- 熱帯・亜熱帯地域における農業開発と社会変動
- 底質中の元素とその化学状態に着目した都市河川環境分析
- 研究開発における予測の構造化とその研究開発評価への応用
- 製造業における設計・生産の連携強化のための技術マネジメントに関する研究
- 技術変化の影響評価：環境対策における技術の波及効果と構造変化の分析
- 都市景観や建築とそれについてのイメージ生成過程の分析的研究
- 科学技術と社会との接点の課題における市民参加の手法

▼担当教員と専門分野

新井 祥穂 (人文地理学)	小豆川勝見 (環境分析化学)	松尾 基之 (環境分析化学)
荒井 良雄 (都市地理学)	永田 淳嗣 (人文地理学)	松原 宏 (経済地理学)
梶田 真 (人文地理学)	丹羽 清 (科学技術計画論)	横山ゆりか (空間計画論)
加藤 道夫 (空間設計理論)	藤垣 裕子 (科学技術社会論)	